

「2009年3月期決算説明会」主なQ&A

【災害特別損失の追加計上の可能性】

Q：災害特別損失について、2010年3月期も追加計上することはあり得ますか。

A：先行している7号機において、全体を見渡せるまでの点検・復旧作業が進捗したこと、および受注者との契約が進んだことから、これらの実績を7号機および他号機へ展開し見積もりに反映させており、見積もりの精度は高いものと考えております。しかしながら、7号機以外では、復旧作業を継続している段階であり、今後の進捗による追加点検の発生や契約金額の確定等により、場合によっては、特別損失の計上額が上下に変動することもあり得ます。

【景気後退に伴う、契約電力更改の状況】

Q：景気後退による契約電力更改の状況について、現在の交渉状況等を教えてください。

A：特定規模需要における販売電力量の減少幅をみると、契約電力にも少なからず影響が出てくるのではないかと考えています。

【火力燃料消費の考え方】

Q：2010年3月期における火力燃料消費の考え方は、どのようなものですか。

A：2010年3月期の火力燃料の調達については、2009年3月期までと同様に相対的に経済性が見込まれるLNGを優先的に引き取り、残りの所要量を石油で賄うことが基本となります。需要の上ぶれに対しては、足元のLNG需給が緩和傾向にあることから、LNGのスポット調達を中心に対応し、需要の下ぶれに対しては、石油を中心に対応していきたいと考えております。なお、需要の変動にかかわらず、石油と比較して割安に調達できる場合にはLNGを出来る限り引き取り、石油と置き換えていきたい、と考えております。

【炭素(排出)クレジットの計上額の見通し】

Q：2010年3月期の炭素(排出)クレジットの計上額の見通し額を教えてください。

A：2009年3月期は、349億円を費用計上しました。これは、2008年3月期までの取得分78億円と2009年3月期の取得分271億円を全額費用化したものです。2010年3月期の償却額の見通しについては、取得量等も未定のことから、現時点ではお答えしかねます。

【販売電力量、景気動向についての見方】

Q：2010年3月期の販売電力量の見通しにおいて、産業用をどのように見ていただけるのでしょうか。

A：2010年3月期の販売電力量では、上期は前年比マイナス3.4%、下期は同プラス5.3%、年度で同プラス0.8%を見込んでいます。足元で大幅に減少している産業用需要については、

年度前半は引き続き前年割れが続くものの、海外経済の緩やかな回復に伴い、年度後半にはプラスの伸びに転じると見込んでおります。

Q：産業用需要の見通しをかなり強気に見られているようですが、2010年3月期の景気をどのように見えていますか。

A：明確な見通しをお示しすることは難しいのですが、政府の追加経済対策が効果を発揮し、海外経済が回復に転じると見込んでいる年度半ば以降、徐々に景気は上向いてくると期待しております。ただし、回復の度合いは緩やかなものに留まると考えております。

以 上